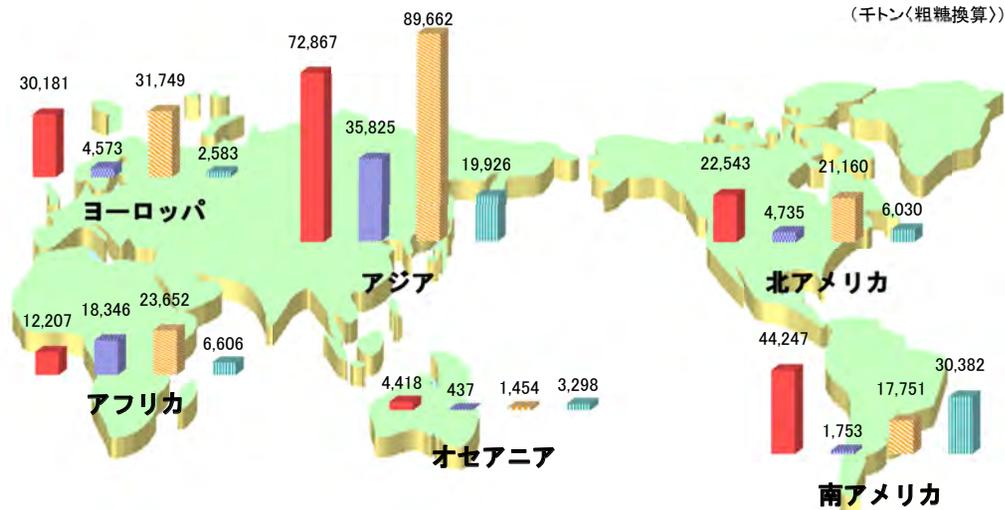


砂糖の国際需給

調査情報部 塩原 百合子

1. 世界の砂糖需給（2022年3月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2021/22年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International [Quarterly Statistical Update, March 2022]
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン (粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1991/92	37,165	115,339	30,325	109,187	30,367	43,275	39.6
1996/97	48,284	126,217	34,491	118,126	36,946	53,920	45.6
2001/02	61,989	138,052	42,292	137,347	44,299	60,687	44.2
2006/07	56,404	164,685	46,737	155,847	49,829	62,150	39.9
2011/12	48,128	177,086	56,859	169,637	58,665	53,771	31.7
2016/17	69,822	180,387	70,759	181,369	71,288	68,310	37.7
2017/18	68,310	195,550	65,794	180,581	67,847	81,226	45.0
2018/19	81,226	186,490	61,054	184,247	61,525	82,998	45.0
2019/20	82,998	181,283	69,333	181,131	72,065	80,419	44.4
2020/21	80,419	182,322	67,119	184,808	68,322	76,731	41.5
2021/22 (2021年12月予測)	75,817	183,862	63,391	187,532	64,983	70,554	37.6
2021/22 (2022年3月予測)	76,731	186,462	65,669	185,429	68,825	74,608	40.2

資料：LMC International [Quarterly Statistical Update, March 2022]
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。
 注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。
 注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

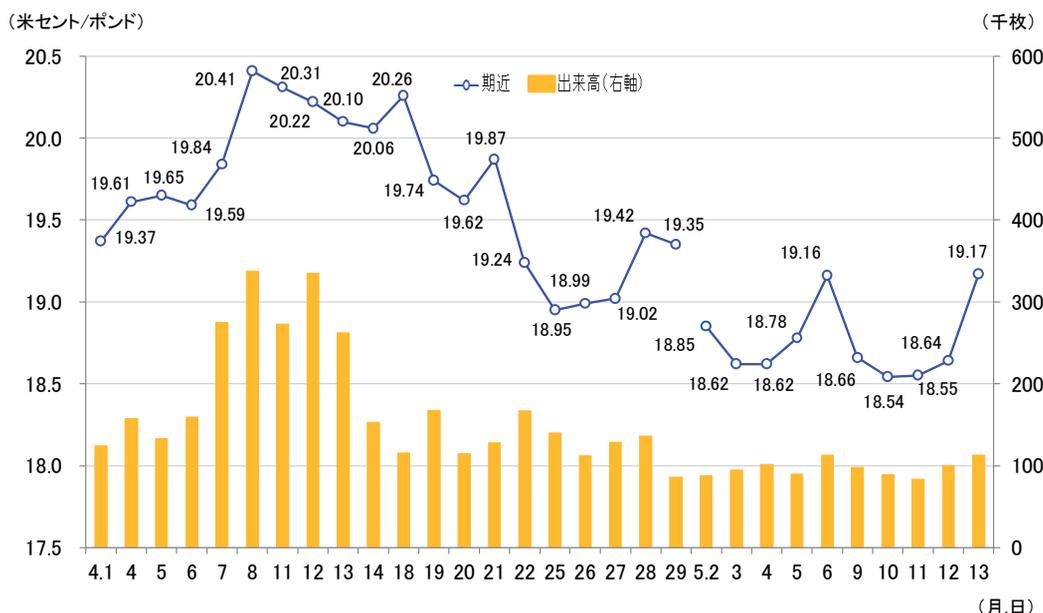
「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2022年7月号の掲載予定となります。直近の内容は2022年4月号をご参照ください。
 「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002669.html
 「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002670.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（4/1～5/13）

～4月中旬に20セント台まで上昇するも、その後は下落基調で推移～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：4月は期近5月限、5月は7月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2022年4月の推移を見ると（5月限）、1日は、原油価格に追随し前日（^{がつきり}）から下落して（注1）、1ポンド当たり19.37セント（注2）で引けた。4日は、インド製糖協会（ISMA）が発表したインドの10月～翌3月の砂糖生産量が前年同期比11%増の3099万トンだったが、リアル高（注3）や原油価格の上昇が支えとなり、同19.61セントと上昇した。7日は、民間コンサルタント会社の予測として、砂糖と比べてエタノール生産の収益性が高く、ブラジルの製糖工場がサトウキビの7割をエタノール生産に振り向けるとの発表を受けて、同19.84セントと上昇した。8日は、続伸して同20.41セントと急騰し、4カ月半ぶりに20セント台を付けた。18日は、原油価格の上昇に伴い、同20.26セントまで値を上げた。20日は、ブラジ

ル国家食糧供給公社（CONAB）が2021/22年度の砂糖生産量を前回予測から引き上げたことで、同19.62セントまで値を下げた。21日は、原油価格の上昇によって同19.87セントまで値を戻したが、22日は、米国農務省（USDA）がブラジルの22/23年度の砂糖生産量を前年度比3%増と予測したことなどから、同19.24セントまで下落した。25日は続落し、同18.95セントと19セントを割り込んだ。28日は、製糖工場の稼働遅滞を理由に、同国中南部地域における4月前半の砂糖生産実績が前年同期比8割減となったとブラジルスアトウキビ産業協会（UNICA）が発表したことにより、同19.42セントまで上昇した。納会日の29日は、同19.35セントを付けた。

7月限に代わった5月に入ると、2日は、リアル

安を背景に同18.85セントを付けた。3日以降は、原油相場の動きに追随する形となり、9日は、同18.66セントまで下落した。10日は、22/23年度の世界の砂糖供給量は消費量を400万トン上回ると大手金融企業が予測したことで、同18.54セントまで下落した。13日は、原油価格の上昇を受けて、同19.17セントまで急上昇した。

(注1) 一般に、原油価格が下落すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も減少する。バイオエタノールの需要減少により、その原料作物(サ

トウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが減る一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が増えると想定される。食品用途仕向けの度合いが大きくなるほど需給が緩和し、当該食品の価格を押し下げる方向に作用する。

(注2) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注3) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してリアルが上昇すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が低下する。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すると、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向 (2022年5月時点予測)

ブラジル

2022/23年度 (4月～翌3月) の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：848万ha (前年度比2.3%減)

生産量：6億500万トン (同4.9%増)

【砂糖 (甘しゃ糖)】

生産量：3775万トン (同0.4%増)

輸出量：2708万トン (同0.1%減)

2022/23年度の砂糖生産量はわずかに増加し、輸出量は前年度並みの見込み

LMC International (農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社) による2022年5月時点の予測によると (以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述)、2022/23年度 (4月～翌3月) のサトウキビ収穫面積は、大規模な植え替えが計画されているものの、前年度の不作による苗不足から、848万ヘクタール (前年度比2.3%減) とわずかに減少すると見込まれる (表2)。一方でサトウキビ生産量は、中南部地域において平年より乾燥したものの、サトウキビの生育に好条件が続いたことによ

り6億500万トン (同4.9%増) とやや増加すると見込まれる。砂糖生産量は、好調なエタノール価格を背景に、製糖業者はエタノール製造への仕向け量を増やすものと見込まれ、3775万トン (同0.4%増) と、わずかな増加にとどまると見込まれる。輸出量も同様に、依然として続くコロナ禍や不安定な国際情勢を背景とした海上運賃の高騰を受けて、インドネシアやアフリカ諸国などでブラジル産の粗糖需要が低下していることから、2708万トン (同0.1%減) とかなり大きく減少した前年度並みで推移すると見込まれる。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

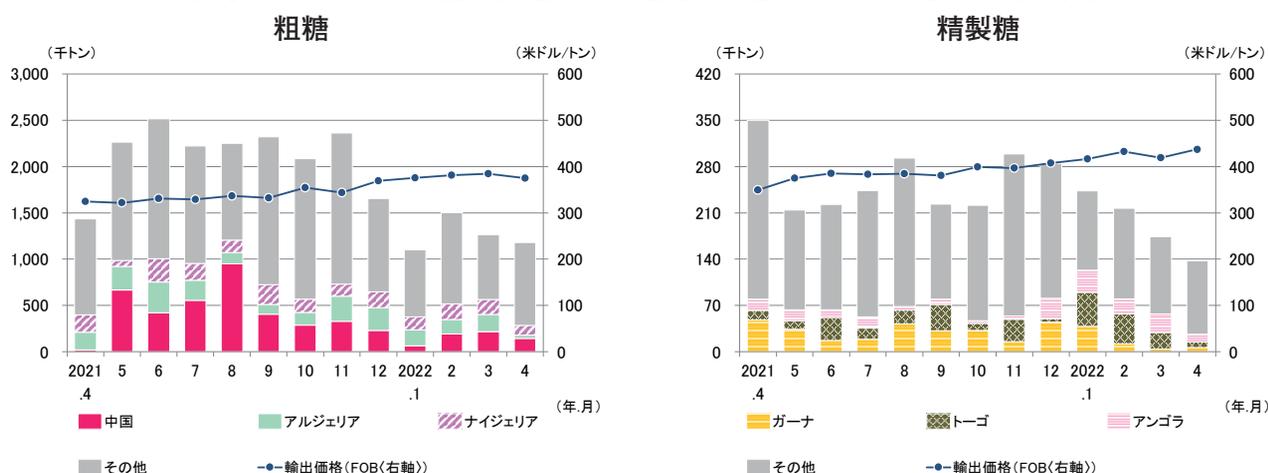
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (4月予測)	2022/23 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,599	8,651	8,683	8,533	8,483	▲2.3%	
サトウキビ生産量	642,677	657,432	576,707	602,500	605,000	4.9%	
砂糖	生産量	31,804	44,597	37,610	37,560	37,750	0.4%
	輸入量	5	5	5	5	5	0.0%
	消費量	10,842	10,996	10,666	10,638	10,666	0.0%
	輸出量	20,321	34,042	27,109	26,921	27,082	▲0.1%
	期末在庫量	3,777	3,341	3,181	2,940	3,188	0.2%
	期末在庫率	12.1	7.4	8.4	7.8	8.4	0.0ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

インド

2021/22年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：517万ha(前年度比5.3%増)

生産量：4億4719万トン(同6.0%増)

【砂糖(甘しや糖)】

生産量：3869万トン(同15.0%増)

輸出量：1075万トン(同25.3%増)

2021/22年度の砂糖生産量はかなり大きく、輸出量は大幅に増加する見込み

2021/22年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、517万ヘクタール(前年度比5.3%増)とやや増加すると見込まれる(表3)。主産地の降雨量は平年並みまたは平均を上回っており、生育状況は順調であることから、サトウキビ生産量は4億

4719万トン(同6.0%増)とかなりの程度増加すると見込まれる。砂糖生産量は、北部で発生した収穫期前の大雨の影響が想定より軽微であったことや、主産地のマハラシュトラ州やカルナータカ州のサトウキビ生産量が予想を上回っていることを要因に前月予測から上方修正され、3869万トン(同15.0%増)とかなり大きく増加すると見込まれる。

輸出量は、砂糖の国際価格の上昇による輸出意欲の高まりを受けて前月予測から上方修正され、1075万トン（同25.3%増）と大幅に増加すると見込まれる。なお、インド産砂糖の主要輸出先であるバングラデシュでは、国内消費量の9割以上を輸入で賄っており、平時と比べて砂糖消費量が増加するラマダン（イスラム教徒の断食月）が始まる4月に向けて、国内の在庫を確保する動きがあると現地報道は伝えている。

砂糖消費量、行動制限措置の緩和などを受けて回復する見込み

USDAが4月19日に公表した資料によると、インドの2021/22年度砂糖消費量は、飲食店などの業種による砂糖需要や、消費者における加工食品需要の高まりを受けて、2900万トン（前年度比3.6%増）と見込まれている^(注1)。同国では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大抑制に向けた行動制限措置の緩和に伴い、砂糖需要が高まっているが、結婚式やイベントなどの開催頻度の増加により、最も砂糖消費が顕著な業種の一つであるホテルや式場などの料飲部門の需要も回復している

という。また、同年度はアイスクリーム、砂糖菓子、焼き菓子、郷土菓子のミタイ^(注2)（写真1、2）、飲料、加工食品などの消費者需要も大きく回復している。この流れが継続することで、次年度の砂糖消費量は2950万トン（同1.7%増）と見込まれている。特にミタイ業界では、COVID-19の感染拡大をきっかけに、eコマース（EC）への参入が相次ぎ、大手ECサイトとの提携や独自サイトの創設などを講じたことで、ロックダウン発令時であっても消費者に商品を届けられるようになった。

（注1）表3の消費量（2938万トン）との差異は、出典の違いによるものである。

（注2）ミタイ（Mithai）とは、インドを含む南アジアの郷土菓子の総称で、日常的に食されるほか、結婚式などのお祝いの際や祭りでの消費も多い。主に小麦粉や砂糖、牛乳、ナッツなどから作られる。同国の伝統的な菓子産業（塩気のある郷土菓子〈Namkeen〉を含む）の売上は、COVID-19の影響で著しく減少したものの、2022年度には約86億米ドル（約1兆1168億円^(注3)）まで回復すると予測されている。

（注3）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の4月末TTS相場1米ドル=129.86円を使用。



写真1 ミタイの例



写真2 ニューデリーのミタイ販売店

表3 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

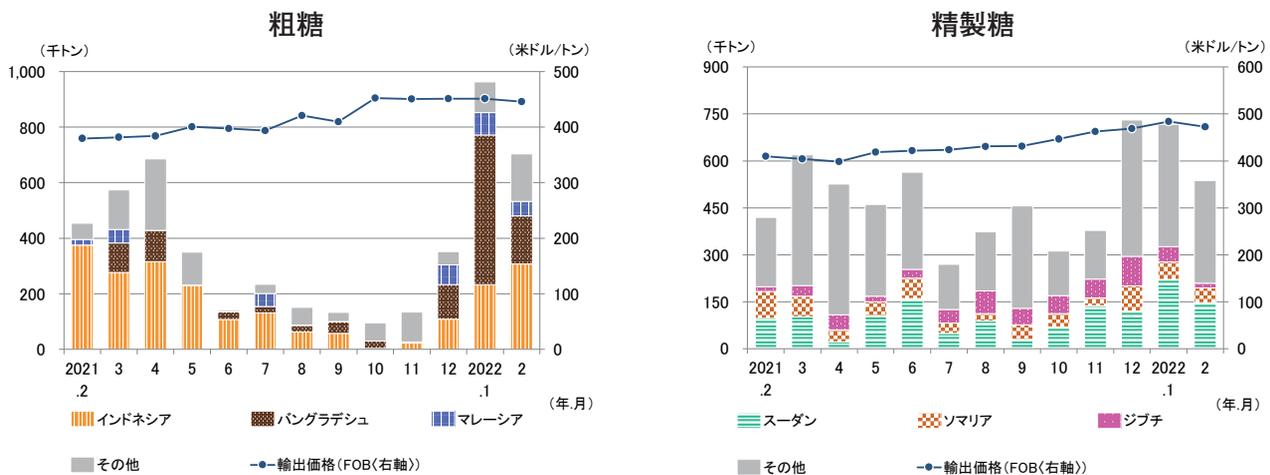
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (4月予測)	2021/22 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,960	4,642	4,906	5,089	5,165	5.3%	
サトウキビ生産量	404,528	369,805	421,687	437,543	447,187	6.0%	
砂糖	生産量	35,798	29,544	33,642	37,426	38,688	15.0%
	輸入量	664	1,687	1,022	216	144	▲85.9%
	消費量	27,648	27,324	28,679	29,376	29,376	2.4%
	輸出量	5,504	8,288	8,582	9,734	10,750	25.3%
	期末在庫量	14,833	10,452	7,854	6,386	6,559	▲16.5%
	期末在庫率	44.7	29.4	21.1	16.3	16.3	4.7ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

中国

2021/22年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：112万ha(前年度比3.6%減)

生産量：7389万トン(同0.4%増)

【てん菜】

収穫面積：14万ha(同37.8%減)

生産量：718万トン(同42.0%減)

【砂糖(甘しゅ糖およびてん菜糖)】

生産量：995万トン(同13.7%減)

輸入量：680万トン(同17.5%減)

2021/22年度の砂糖生産量はかなり大きく、 輸入量は大幅に減少する見込み

2021/22年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、112万ヘクタール(前年度比3.6%減)とやや減少すると見込まれる(表4)。サトウキビ

生産量は、主産地である広西チワン族自治区や雲南省の好天などを受けて7389万トン(同0.4%増)とわずかに増加すると見込まれる。一方、同年度のてん菜の収穫面積は、トウモロコシへの転作の増加により(注)、14万ヘクタール(同37.8%減)と大

幅に減少すると見込まれる。てん菜生産量も、収穫面積の減少や冬季の寒波などを背景に、718万トン（同42.0%減）と大幅な減少が見込まれる。

砂糖生産量は、原料の減産に加え、てん菜収穫期間中に発生した大規模停電による製糖工場の操業停止や、降雨によるサトウキビ収穫の遅滞などを受けて995万トン（同13.7%減）と1000万トンを割り込む減少が見込まれる。輸入量は、2020年に引き続き2021年も国内生産の不足分を上回る量が輸入され、国内在庫が積み増されたことから、680万トン（同17.5%減）と大幅に減少すると見込まれる。

（注）同国では、アフリカ豚熱からの回復による豚飼養頭数の増加を受けて、飼料用トウモロコシなどの需要が高まりを見せている。詳細は、2021年6月17日付海外情報「中国農業展望報告（2021-2030）を発表（飼料編）（中国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002967.html）を参照されたい。

国際鉄道によるカザフスタン向け砂糖輸出を初めて実施

5月7日、白糖2600トン（総額約180万米ドル〈2億3375万円〉^{（注）}）を積んだカザフスタン行きの特別列車が広東省湛江市の駅を出発したと現地メディアは報じた。特別列車は、中国国家鉄路集団などが運営し、中国と欧州各国を結ぶ国際貨物列車「中欧班列」によって運行されるもので、今回は広東省から広西チワン族自治区の南寧国際鉄道港を經由し、約3週間かけてカザフスタンへ直接輸送される。カザフスタンの砂糖自給率は約7%と低く、砂糖需要のほとんどをロシアなどからの輸入で賄っているが、ウクライナへの軍事侵攻による国際情勢の変化から、新たな砂糖輸入先を探し始めていた。今回砂糖を輸出した中国企業は、これまで船便で砂糖を輸出していたが、船便はCOVID-19による物流の停滞や海上運賃上昇の影響を受けており、中欧班列の通関の早さや定時性などの利点から、鉄道による砂糖輸出に初めて踏み切ったという。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の4月末TTS相場1米ドル=129.86円を使用。

表4 中国の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

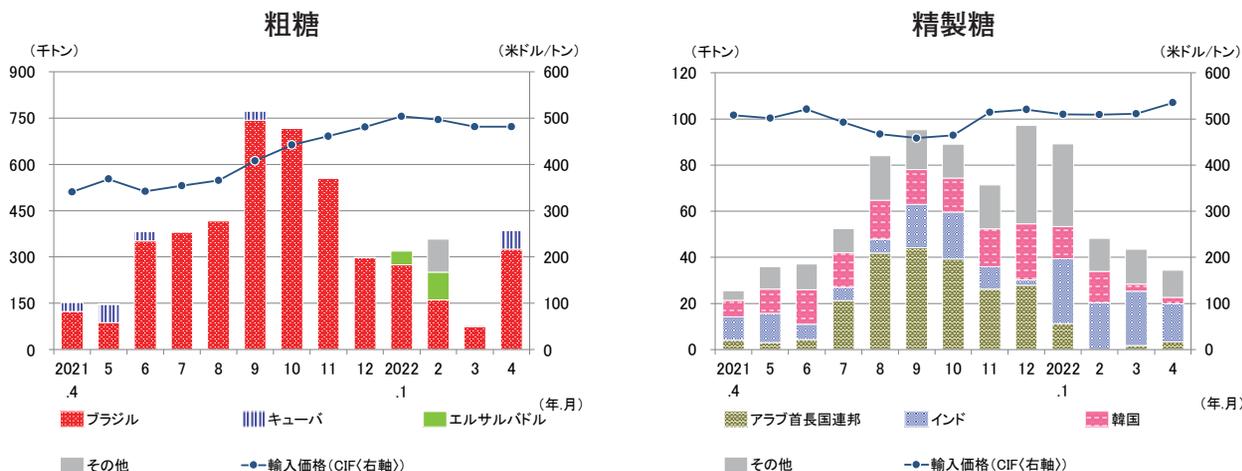
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (4月予測)	2021/22 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,219	1,176	1,157	1,115	1,115	▲ 3.6%	
サトウキビ生産量	78,590	76,231	73,600	73,890	73,890	0.4%	
てん菜収穫面積	243	213	231	144	144	▲ 37.8%	
てん菜生産量	11,670	10,900	12,380	7,117	7,177	▲ 42.0%	
砂糖	生産量	11,640	11,258	11,530	9,928	9,946	▲ 13.7%
	輸入量	5,038	6,595	8,245	7,041	6,800	▲ 17.5%
	消費量	16,522	16,414	16,849	16,849	16,849	0.0%
	輸出量	210	192	132	127	128	▲ 3.1%
	期末在庫量	11,218	12,466	15,260	15,253	15,030	▲ 1.5%
	期末在庫率	67.0	75.1	89.9	89.9	88.5	1.3ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位3カ国を表示。

E U

2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：146万ha（前年度比1.4%減）

生産量：1億1020万トン（同12.0%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1711万トン（同13.0%増）

輸出量：128万トン（同1.1%増）

2021/22年度の輸出量は、わずかに増加する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は、146万ヘクタール（前年度比1.4%減）とわずかな減少が見込まれる（表5）。てん菜生産量は、干ばつの影響を受けた前年と比べ、今期は生育期の降雨量が多く、生育状況が順調であることから、1億1020万トン（同12.0%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。砂糖生産量は、2021年末

以降スペイン南部で発生している干ばつの影響があるものの、干ばつを記録した前年と比べて生育期の降雨量が多く、大規模な病虫害も発生していないため、1711万トン（同13.0%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。輸出量は、前年同期と比較して輸入ペースが鈍化しているため前月予測から下方修正され、128万トン（同1.1%増）とわずかに増加すると見込まれる。

表5 EUの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (4月予測)	2021/22 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
てん菜収穫面積	1,601	1,517	1,476	1,455	1,456	▲1.4%	
てん菜生産量	104,309	110,102	98,420	110,214	110,196	12.0%	
砂糖	生産量	17,117	16,971	15,138	17,114	17,109	13.0%
	輸入量	2,349	2,230	1,888	1,890	1,945	3.0%
	消費量	17,647	17,016	16,780	17,342	17,410	3.8%
	輸出量	2,391	1,436	1,262	1,349	1,275	1.1%
	期末在庫量	1,598	2,347	1,332	1,572	1,701	27.7%
	期末在庫率	8.0	12.7	7.4	8.4	9.1	1.7ポイント増

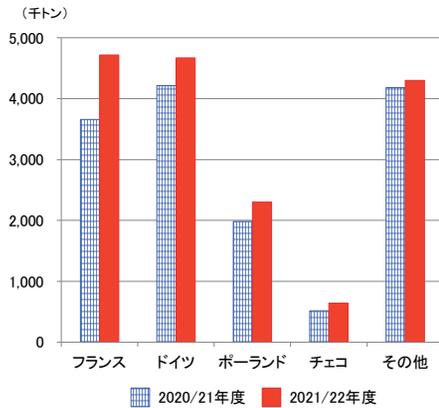
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの砂糖生産見通しおよび国別の生産割合 (2022年4月時点)

EUの砂糖生産見通し

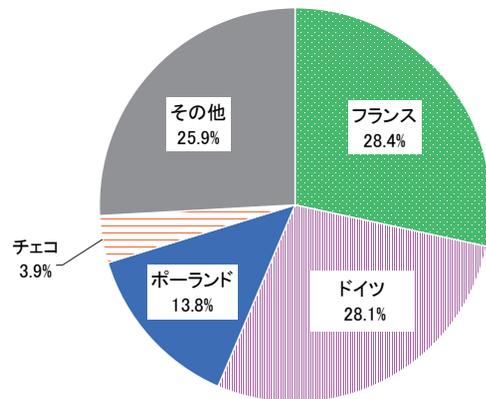


資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2021/22年度は予測値。

国別の生産割合 (2021/22年度)



資料：欧州委員会

4. 日本の主要輸入先の動向 (2022年5月時点予測)

近年、日本の粗糖(甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計)の主要輸入先は、豪州およびタイで、2021年の主要輸入先ごとの割合を見ると、豪州が86.6%(前年比0.03ポイント増)、タイが13.4%(同2.9ポイント増)となっており、2カ国でほとんどを占めている(財務省「貿易統計」)。

豪州

2022/23年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：35万ha（前年度比0.9%減）

生産量：2990万トン（同0.7%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：419万トン（同0.8%増）

輸出量：318万トン（同4.5%減）

2022/23年度の砂糖生産量は、わずかに増加する見込み

2022/23年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、35万ヘクタール（前年度比0.9%減）とわずかに減少すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、2990万トン（同0.7%減）とわずかに減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、2022年初めの降雨量が多く、サトウキビの品質向上が見込まれることから、前月予測から上方修正され、419万トン（同0.8%増）とわずかな増加が見込まれる。輸出量は、在庫の維持を前提に、318万トン（同4.5%減）とやや減少すると見込まれる。

連邦政府、業界による輸出促進戦略への支援を決定

豪州砂糖製造業者協議会（ASMC）とサトウキビ生産者団体CANEGROWERSは4月29日、砂糖の輸出促進に向けた5カ年戦略の第1フェーズを連邦政府が支援すると決定したことを歓迎した。この戦略は砂糖産業関係者が数年にわたって分析や議論を行って策定したもので、次の五つの目的が掲げられている。

- ①貿易へのゆがみをもたらす国内価格の支持政策や輸出補助金のない、より公平な国際市場の実現
- ②最も収益性の高い海外の市場に照準を合わせることによる、輸出利益の最大化
- ③成長が見込まれる新たな輸出先の開拓
- ④輸出の妨げとなる技術的な障壁への対処
- ⑤海外顧客の環境的要件に対する理解

同国の砂糖産業は、収入の大部分を粗糖輸出から得ているため、貿易政策と市場アクセスの改善への取り組みは依然として業界の優先事項であり、この戦略が成功すれば輸出先の多様化や業界の収益増加につながると両団体は述べている。なお、今期の取り組みにおいては、世界貿易機関（WTO）でのインドに対する裁定^{（注）}や日本への輸出手続の改善などにも関連する内容であるとしている。

（注）詳細は、2022年1月13日付け海外情報「WTO紛争解決委、インドの砂糖政策を協定違反と裁定」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003153.html）を参照されたい。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (4月予測)	2022/23 (5月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	364	354	350	347	347	▲ 0.9%
サトウキビ生産量	30,046	31,074	30,114	29,951	29,900	▲ 0.7%
砂糖	生産量	4,293	4,385	4,154	4,132	0.8%
	輸入量	17	10	15	17	13.3%
	消費量	1,085	1,041	1,039	1,032	▲ 0.6%
	輸出量	3,449	3,357	3,326	3,175	▲ 4.5%
	期末在庫量	747	744	548	608	▲ 0.4%
	期末在庫率	16.5	16.9	12.6	14.5	0.4ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：149万ha（前年度比0.2%増）

生産量：9200万トン（同38.0%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：1066万トン（同33.8%増）

輸出量：765万トン（同93.7%増）

2021/22年度の輸出量は、前年度から大幅に回復する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、149万ヘクタール（前年度比0.2%増）と横ばいで推移すると見込まれる（表7）。サトウキビ生産量は、前年度が干ばつの影響を大きく受けた中、主産地の降雨量が平年並みまで回復し、単収が大きく改善することで、9200万トン（同38.0%増）と大幅に増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、可製糖率（CCS）の低さ（注1）や、グリーンハーベスト（注2）の普及を背景とした梢頭部や葉などの混入が製糖効率を低下させているものの、1066万トン（同33.8%増）と大幅な増加が見込まれる。輸出量は、サトウキビが記録的不作とな

った前年度からの反動を受けて、765万トン（同93.7%増）と前年比で倍増が見込まれる。なお、期末在庫量は、増産見込みながらも、輸出量の大幅な回復から457万トンと前年度よりも減少し（同9.4%減）、期末在庫率も40.9%（同26.0ポイント減）と19/20年度に近い水準にまで大幅に低下すると見込まれる。

（注1）CCSとは、サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。平年よりも降雨量が多いことが影響し、同年度の平均的なCCSは前年度よりわずかに低い12.7%となった。

（注2）サトウキビを燃やさず、そのまま収穫する方法。

表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

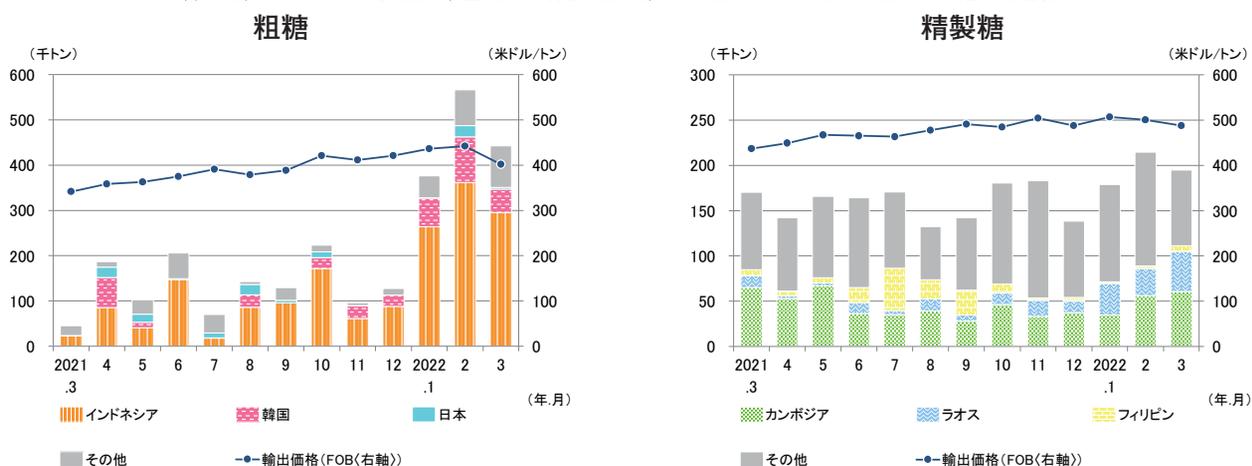
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (4月予測)	2021/22 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,913	1,714	1,485	1,489	1,489	0.2%	
サトウキビ生産量	130,970	74,893	66,659	92,000	92,000	38.0%	
砂糖	生産量	15,457	8,801	7,971	10,782	10,662	33.8%
	輸入量	4	59	86	35	35	▲59.5%
	消費量	3,737	3,773	3,592	3,521	3,521	▲2.0%
	輸出量	10,113	8,461	3,950	7,773	7,651	93.7%
	期末在庫量	7,899	4,525	5,041	4,565	4,567	▲9.4%
	期末在庫率	57.0	37.0	66.8	40.4	40.9	26.0ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。